

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

タスク・シフト/シェア厚労省指定講習会 (埼玉001)を終えて

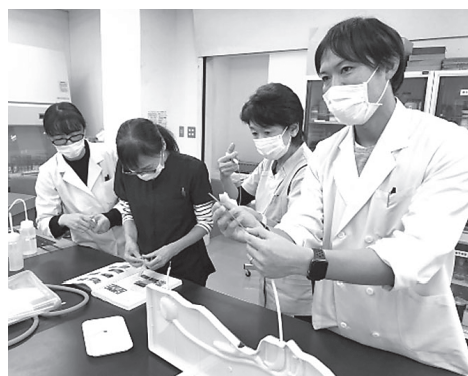
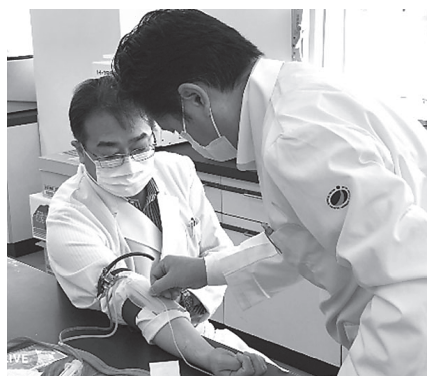
埼玉県済生会栗橋病院
猪浦 一人

11月23日、埼玉県で初めてのタスク・シフト/シェア厚労省指定講習会が行われました。この講習会は日臨技のWeb(オンデマンド)で行われている基礎講習会修了者が受講できる実技講習会で、10月の法律改定で認められた10項目の業務について、講習会を修了することで国家資格取得が認められ、業務拡大につながる講習会です。数年前、検体採取について同様の厚労省指定講習会があり、埼玉県でも二千名近い会員が受講しました。検体採取講習会との大きな違いは、座学はWeb(オンデマンド)で700分、実技講習会を一日かけて行うところです。実技講習会は60人の定員で、今回の埼玉001はあっという間に定員に達してしまいました。



9時受付開始、9時30分からのオリエンテーション後実習が行われました。実習は20人3グループに分かれ、第一セッションは自治医科大学附属さいたま医療センター 一般消化器外科 辻仲真康先生による「直腸・肛門圧検査」「内視鏡検査」、第二セッションは埼玉県済生会栗橋病院 看護師 小川理恵先生による「静脈路確保」「造影剤投与」、第三セッションは埼玉県済生会栗橋病院 看護師 氏原直美先生による「喀痰吸引」「持続式血糖測定装置装着」で、それぞれ2時間、午前中1セッション、午後2セッションをローテーションし、計6時間の実習を行いました。初めて行う行為が多く、受講者は食い入るようにデモンストレーションを見学し、真剣に実習に取り組んでおりました。

初めての開催でしたが受講者のご協力もあり無事終了できましたこと感謝申し上げます。



テーマ リンパ腫と関連検査について

主催 血液検査研究班

実施日時：令和3年10月28日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演1：活用しよう！フローサイトメトリー解析

講師：網野 育雄（埼玉医科大学国際医療センター）

講演2：血液がんと可溶性IL-2レセプターについて

講師：福田 雅之助（H.U.フロンティア株式会社 テクニカルサポート課）

参加人数：会員106名 賛助会員3名

出席した研究班班員：中山智史 原誠則 網野育雄 神成千晴 澁川絵美 星聖子 堀口大介
加藤鉄平

研修内容・感想など

リンパ腫と関連検査について、フローサイトメトリー解析を網野氏、可溶性IL2-Rを福田氏、それぞれの講演がWeb環境下にて行われた。

講演1では、フローサイトメトリー（FCM）はリンパ腫の診断、病型分類に用いられ、その原理や実際の症例を提示しながら解説された。FSC（前方散乱光）とSSC（側方散乱光）により得られるサイトグラムにて、リンパ球、単球、顆粒球はそれぞれの領域に分けられ、まずは目的とする領域をゲーティングする必要がある。この時、鏡検時の細胞形態の情報等からゲーティングの位置を決定していくと良いが、実際には外注検査に委託している施設も多く、必要に応じてゲーティングの位置の変更を依頼すると良いとのことであった。質疑応答も盛んに行われ、骨髄は凝固しないように採取することが重要である点や、陽性と判定するのは20%以上とする点、想定した結果と違いが生じたら、ゲーティングの位置の確認や使用する蛍光色素を変えてみる等、実際の業務に役立つ情報が紹介された。

講演2では、3大血液がんのひとつとも言われる悪性リンパ腫の基礎知識から始まり、分類や進行速度の違い、臨床経過、治療に至るまで悪性リンパ腫について学んだ。その中でも、可溶性IL-2R（sIL-2R）は、非ホジキンリンパ腫および成人T細胞白血病／リンパ腫において高値となり、診断の補助や治療効果判定、再発の早期発見の指標として活用されている。特に成人T細胞白血病／リンパ腫ではsIL-2Rが高度上昇することが知られており、この疾患についても解説された。

近年では悪性リンパ腫の罹患率は増加傾向にあり、日頃の業務においても遭遇する機会は少なくない。悪性リンパ腫が疑われた際には、FCMやsIL-2Rの結果に着目する等、この研修で得た情報を役立てていきたい。

（文責：澁川絵美）

テーマ 秩父セミナー in Web

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：令和3年10月30日 14時00分～18時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：佐藤 摘歩実（株式会社日立ハイテク）

後藤 正人（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

柳田 小百合（ベックマン・コールター株式会社）

高橋 大樹（日本電子株式会社）

石川 純也（株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所）

新井 堅仁（関東化学株式会社）

中山 智史（防衛医科大学校病院）

小関 紀之（獨協医科大学埼玉医療センター）

参加人数：会員69名 賛助会員27名

出席した研究班班員：永井謙一 北川裕太朗 小林麻里子 石川純也 羽田幸加 大谷真澄
巖崎達矢 廣瀬良磨

研修内容・感想など

毎年秋頃2日間にわたり開催している秩父臨床化学セミナーを、昨今の情勢を鑑み、Webで

開催した。今回は、「各装置メーカーの特徴」「日常業務で役立つExcel操作」「試薬組成と工夫について」「臨床化学担当者も知っておきたい～血液検査、尿髄液検査～」についての講演を半日で企画した。

「各装置メーカーの特徴」では、汎用自動分析装置の主要メーカー4社に講師をお願いし、自社の特徴について講演された。各社で攪拌の方法を変えたり、HbA1cや凝固などが測定出来たり、ソフトを使い試薬の管理が出来たりと多様であった。

「日常業務で役立つExcel操作」では、Microsoft Excelの基本的な使い方や、数式・関数の使い方、オススメの関数など解説があった。

関数を覚える必要はなく、何をしたいかを明確にし、インターネットなどで検索すればいいというのが印象的であった。使用頻度の高いIF関数については具体例を示し、理論式を一つ一つ分解して説明されたので大変分かりやすく感じた。

「試薬組成と工夫について」では、なぜこの緩衝液で、基質濃度なのか等、測定原理から説明された。また、反応には直接的には関係ないが、妨害物質の影響を回避するために添加されているものや、試薬の安定性に関与するものなど試薬開発の工夫を知ることができた。

「臨床化学担当者も知っておきたい～血液検査、尿髄液検査～」では、血液検査・一般検査の基礎的なことから、よく遭遇する貧血の診かた、鑑別するための他の検査など、両講演とも症例を交え詳しく解説があった。

Web開催であったが各講演に質問もあり、関心の高さがうかがえた。

本セミナーで得られた情報・知識を日常業務に役立てていただければと思う。

(文責：永井謙一)

テーマ 自宅で鏡検実習③！

～あなたのパソコンが顕微鏡に!? (結晶・その他編)～

主催 一般検査研究班

実施日時：令和3年11月5日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講師：中川 禎己 (小川赤十字病院)

参加人数：会員114名

出席した研究班班員：藤村和夫 小関紀之 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邊裕樹 小針奈穂美
室谷明子 中川禎己

研修内容・感想など

自宅で鏡検実習シリーズの第3弾として、～あなたのパソコンが顕微鏡に!? (結晶・その他編)～を研究班員の中川氏を講師にWebにて開催した。

無晶性塩類 (尿酸塩、リン酸塩) の除去方法として、0.4%EDTA加生理食塩水を用いる方法が紹介された。まず尿検体を遠心し、上清を除去して沈査を作成する。この沈査に0.4%EDTA加生理食塩水を加えて再度遠心し、沈査を作成して鏡検する。塩類を溶解して除去することで細菌などの細かい成分も鏡検がしやすくなる。ただし、検体によっては赤血球などの成分も壊れて減少する場合もあるので注意が必要である。

EDTA-3Kがない施設でも、抗凝固剤として採血管に入っているものを使用し作成が可能とのことであった。

続いて、各結晶成分、細菌、真菌、トリコモナスなどの鑑別ポイントから臨床的意義までを実際の鏡検像が動画で配信され、とても分かりやすい解説であった。また、各結晶成分は、形態的特徴、色調、尿pH、30%塩酸や水酸化カリウムでの溶解の有無などを参考に鑑別するとの解説であった。

今回、中川氏が講演で使用した写真や動画は顕微鏡用カメラではなく、スマートフォンで撮影されたものであった。顕微鏡に専用カメラが設置されていない施設にとっては、尿沈渣の写真や動画の撮影ができる方法として、スマートフォンとアダプターを使用しての撮影方法の解説はとても参考になった。

各種成分の鑑別ポイント、臨床的意義を再確認し、日常業務に大いに役立つ講演であった。

今回は、このコロナ禍で鏡検実習の現地開催ができないため、Web研修での鏡検実習を再現した研修会を企画したものであり、新たな可能性を感じることができた。

(文責：小関紀之)

テーマ **知っていますか？ 縁の下の力持ち。
理解を深めて、より良い輸血療法を！ 製造所の役割と依頼検査**

主催 輸血検査研究班

実施日時：令和3年11月18日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：神戸 考裕（日本赤十字社血液センター 埼玉製造所）

参加人数：会員71名

出席した研究班班員：小原佑太 宮澤翔子 渡邊一儀 岸健太 比嘉絢子 久保居由紀子

研修内容・感想など

今回の研修会は、大まかに3つの内容について講演が行われた。

①『ブロック血液センターとは』では、役割として業務と経営が挙げられ、献血血液が製造所に届くまでの流れや検査について、更に医療機関に納品されるまでの様子を写真等を交えてわかりやすく説明があった。

普段なかなか目にすることがない光景であったため、とても興味深かったのと、献血者の確保や品質管理等に日々努めてくださるスタッフの方々を目のあたりにし、製剤を使用している側として廃棄血を削減する努力をしなければいけないことを再認識させられた。

②『依頼検査について』では、実際に受けた依頼検査の内容や検査受託の基準について解説があった。日々の検査業務の中で、自施設では解決できない症例に遭遇することがある。血液センターにも限りがあるため、輸血を前提とした症例の検査依頼が可能とのことであった。

また、解決方法について相談に応じているとのことで、大変心強く感じられた。

ただ、時間的なこともあるため、検査結果が確定できない場合に使用する製剤のルール決めが各施設で必要と考える。

③『医療機関からの症例』では、実際の3症例について検査結果、追加試験、結果の解釈について話された。

日々の業務の中で血液センターと各医療機関との間で、暫し温度差を感じることもあるが、今回の講演を通して改めて血液センターの状況を理解することができた。今後も連携を取りながら、患者様に安心して輸血医療を受けていただく様に製剤管理および検査の向上に努めていきたい。

(文責：久保居由紀子)

テーマ **食物と水由来による寄生虫症と検査法**

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：令和3年11月19日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：山本 徳栄（国立感染症研究所 寄生動物部 客員研究員）

参加人数：会員63名

出席した研究班班員：鈴木勤 立塚梓 菊池孝司 吉田翔平、鈴木由美子 富井貴之

研修内容・感想など

今回山本氏より寄生虫症についての講演であった。毎回、山本氏の講演は、寄生虫の虫体や虫卵を始めとした多くの画像を盛り込んであるため、大変参考となる内容である。今回も染色や鏡検の検査のポイントを図示しながら説明され、寄生虫検査の経験があまりない人にも大変わかりやすい内容であった。講演の中でも紹介されていたが、種々の雑誌に掲載されている山本氏の寄生虫検査に関する論文は、寄生虫検査に携わる技師の教科書として、新たに寄生虫検査に従事する技師はもちろん、多くの技師の方々の参考になると思われる。

山本氏の寄生虫検査の経験は国内屈指と言っても過言ではなく、その知識と手技を後進に伝えていくため、今後も定期的に研修会を企画していきたい。

(文責：菊池孝司)

**令和3年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第8回 理事会議事録**

日 時：令和3年11月11日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事) 神山 矢作 松岡 猪浦 濱本
長澤 神嶋 菊池 松尾 伊藤
笹野 塚原 松寄 石井 神戸
阿部 長岡 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 山口 久保田

(監事) 細谷

欠 席：(理事) 小山 飯野

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は20名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (令和3年10月14日～令和3年11月10日)

10月14日(木) 令和3年度第7回理事会：

神山、矢作、松岡、猪浦、濱本、山口、神嶋、菊池、松尾、伊藤、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、長岡、久保田、長谷川、飯野、遠藤

10月15日(金) 第49回埼玉県医学検査学会実行委員会：神嶋

10月18日(月) 第7回事業部メール会議：

矢作、伊藤、笹野、塚原、松寄

10月18日(月) 青年部委員会：濱本

10月19日(火) 女性技師企画研修委員会：

山口、菊池、神嶋

10月21日(木) 青年部研修会：

神山、山口、神嶋、神戸、濱本

10月21日(木) 第2回青年部委員会：

山口、神嶋、神戸、濱本

10月23日(土) タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(日臨技関甲信支部主催) 準備：

神山、猪浦、濱本、長岡、阿部

10月24日(日) タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(日臨技関甲信支部主催)：

神山、松岡、矢作、猪浦、小山、濱本、長澤、長岡、阿部、伊藤、笹野、松寄

10月24日(日) 日臨技臨地実習指導者講習会：塚原

10月26日(火) 第50回埼玉県医学検査学会第1回実行委員会：神山、神嶋、飯野

10月27日(水) 日臨技人事委員会：神山

10月29日(木) 第2回研究班運営委員会：矢作、松岡、山口、長岡、阿部、久保田、長谷川、飯野

10月30日(金) 秩父臨床化学セミナー：神山

10月31日(土) 日臨技臨地実習指導者講習会：菊池

11月1日(月) 日臨技宮島会長と面談：神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 公益インフォメーションにて昨年度の事業報告が受理された。

2) 令和4・5年度日臨技会長候補者として宮島喜文会長に立候補要請を行った。

3) 10月23日(土) タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(日臨技関甲信支部主催)の準備に理事5名を派遣した。(別紙資料1)

4) 10月24日(日) タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会(日臨技関甲信支部主催)が行われ埼臨技から12名の理事が受講した。(別紙資料2)

5) 10月24日(日) 及び31日(日) 開催の日臨技臨地実習指導者講習会に2名の理事を派遣した。(別紙資料3)

6) 11月23日(火) 12月12日(日) にタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を東武医学技術専門学校で開催する。

7) 11月25日(木) 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律に基づく、埼玉県の立ち入り検査が実施される。

2 総務部

1) 11月15日(月) 埼臨技だより第510号発行予定

2) 10月18日(月) 青年部委員会研修会事前打ち合わせを行った (別紙資料4)

3) 10月21日(木) 青年部研修会を開催した。(別紙資料5)

4) 10月21日(木) 第2回青年部委員会を開催した。(別紙資料6)

3 事業部

1) 10月18日(月) 第7回事業部会議を開催した。(別紙資料7)

4 学術部

1) 10月26日(火) 生涯教育プログラム12月・1

月分の行事登録（日臨技システム）が完了した。

- 2) 令和3年度第2回研究班運営委員会を10月29日(金)に開催した。(別紙資料8)

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 1) 令和3年度正会員費10名50,000円、入会金9名9,000円、再入会金1名1,000円、合計60,000円の入金があった。

- 2) 石井印刷に埼臨技だより第509号印刷代160,776円、仕分費35,090円、合計195,866円を支払った。

- 3) Zoomライセンス更新料として253,440円を支払った。

- 4) 極東製薬工業株式会社から疑似便の特許権等の譲渡対価として309,706円の入金があった。

7 精度管理委員会 特になし

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技 特になし

11 第49回埼玉県医学検査学会

- 1) 10月15日(金)、第49回埼玉県医学検査学会実行委員会を開催した。(別紙資料9)

12 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 10月26日(火)、第50回埼玉県医学検査学会実行委員会を開催した。(別紙資料10)

III. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和3年度分)

令和3年11月1日現在
会員数 3,356名[令和2年度会員数3,214名]
(新入会員 261名)

賛助会員 76社[令和2年度 78社]
承認された。

- 2) 役員派遣について

11月23日(火)、12月12日(日)に埼玉県で

行われる厚労省指定講習会で、日臨技実務委員とは別に埼臨技から実務委員5名の派遣を承認いただきたい。(別紙資料11)

上記の件について、猪浦一人副会長より発言があり、審議の結果、今年度の事業に限り条件付きで承認とした。

2 総務部 特になし

3 事業部

- 1) 令和3年度、全国「検査と健康展」追加募集申請について

上記の件について、伊藤恵子事業部長より発言があり、審議の結果、今年度は実施しないことで承認された。

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第49回埼玉県医学検査学会 特になし

9 第50回埼玉県医学検査学会 特になし

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 1) 埼玉県医学検査学会運営規則細則の変更について (別紙資料12)

上記の件について、石井直美会計部長より発言があり、審議の結果、学会運営規則細則6条の2を削除することで、可決された。

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

やっと新型コロナ流行の第5波も収まってきたようなこの頃です。第6波は来るのでしょうか？ 用心することは大切ですが、以前同じコロナウイルスで流行したSARS、MERSのように収束し、第6波が来ないことを切に期待します。2021年は新型コロナに始まり、新型コロナが終わった1年でありますように！

2022年が皆様にとって、素晴らしい年になりますことご祈念いたします。良いお年を！

(猪浦 記)

